

ウクライナにおける教員養成課程の二元制度

—A大学のカリキュラム分析を通して—

トカチェンコ・スヴィトラナ

はじめに

本稿は、2005年のボローニャ宣言署名を契機とした、ウクライナにおける教員養成課程改革の実態を明らかにすることを目的とする。

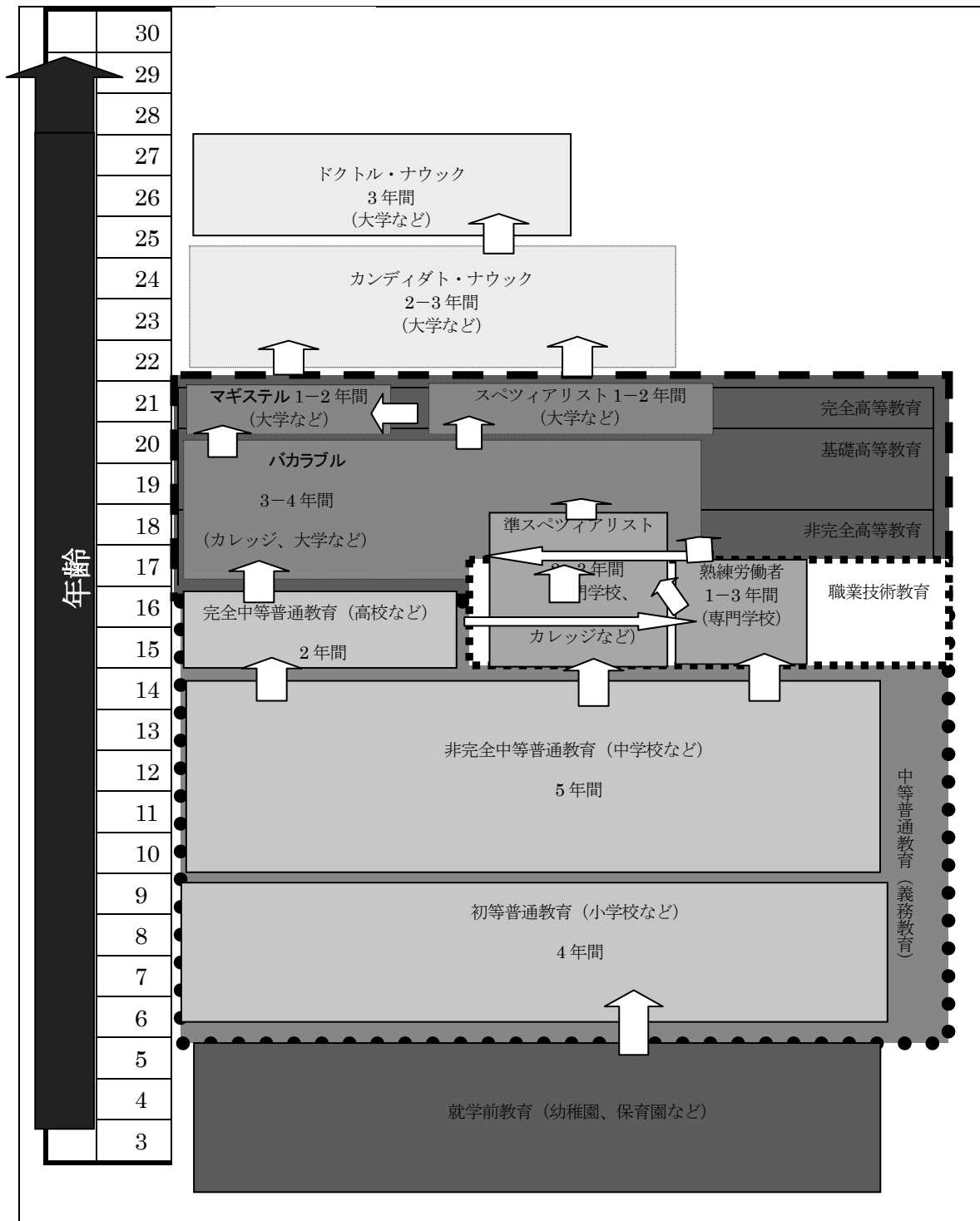
ウクライナにおける教員養成は、教育科学省が認定した教員養成課程のある総合大学、教育大学、教育専門学校及びカレッジなどの高等教育機関で行われている。1991年の独立以降のウクライナの教員資格は、完全高等教育（5年間の大学レベルの教育）の修了者に対する「スペツィアリスト」（спеціаліст）、非完全高等教育（3年間の専門学校及びカレッジ・レベルの教育）の修了者に対する「準スペツィアリスト」（молодший спеціаліст）という2種類であった。この制度に変更を加える契機となったのが、ボローニャ・プロセスである。

ボローニャ・プロセス以前より、独立後、ウクライナにおける独自の教育制度の構築を目指し、独自の高等教育改革を行ってきた。1991年のウクライナの「教育法」（Закон України «Про освіту»）¹では、高等教育に段階制度を導入する可能性が開かれ、1991年度から一部の高等教育機関²において「バカラブル」（бакалавр、学習期間は4年）と「マギステル」（магістр、学習期間は1年または1.5年）が導入された。

2005年4月19日にウクライナはヨーロッパへのインテグレーションに向け³、ボローニャ宣言に署名した。その理由は、第1にウクライナの卒業証明書を海外で通用させること、第2に教育の効力と質を向上すること、第3に世界の労働市場でのウクライナの教育機関とその卒業者の競争力を高めること、の3点である⁴。そして2005年のボローニャ宣言への署名によりウクライナの一般的な卒業資格であった「スペツィアリスト」を将来的には廃止することが決定された⁵。

しかし、これら一連の高等教育制度改革は教員養成課程には適用されず、ボローニャ・プロセスが始まるまでは、ほとんど影響を受けることがなかった⁶。ボローニャ宣言への署名に先立ち、2004年において、教員養成にもバカラブル課程及びマギステル課程による2段階制度を導入するという方針が出された⁷。しかし、2012年現在にも、教員養成を含む高等教育制度において、スペツィアリスト課程が残されている状況である。旧来の5年制スペツィアリスト課程は、マギステル課程と同様にバカラブル課程の卒業者が進学する新たな1年制スペツィアリスト課程になった。現在、バカラブル課程は基礎高等教育課程、マギステル課程及び1年制スペツィアリスト課程は完全高等教育課程であると法律で定められている⁸。したがって、ウクライナにおいて、図1に明らかなように、完全高等教育レベルは二元制度の下で行われていると言える。

図1 ウクライナの教育制度（2013年現在）



*ウクライナの「教育法」(1991年、2013年1月1日改正)をもとに筆者が作成したものである。

ウクライナの義務教育は、小・中・高校（4年－5年－2年）の11年間で、同一の学校内に初等学校から高等学校までの課程がおかれている。小・中学校の課程では同じ学校に通学し、10年目以降は普通学校と専門学校のいずれかを選択するものの、11年間同じ学校に通う生徒が多い。中学校及び・高校は教科担任制であり、教師は中学から高校まで各教科を担当する。小学校は学級担任制であるが、外国語、体育、音楽、美術の科目については、中・高の教科担当が小学校の課程も担当する。教育機関はほとんどが国公立であり、幼稚園から大学まで無償である。

2009年は「教育」専攻のバカラブル課程の卒業者は47,260人であり、そのうち約76%が1年制スペツィアリスト課程及びマギステル課程に進んでいる。同2009年の「教育」専攻の完全高等教育課程の修了者は42,948人であり、そのうち1年制スペツィアリスト課程の修了者は約84%で、マギステル課程の修了者は約16%であった。

ボローニャ・プロセス導入以降、ウクライナの大学で付与される教員資格はスペツィアリスト、マギステルが混在し、それぞれの位置づけは明確であるとは言い難い。

1998年の「教育資格水準（段階教育）についての法規」（Положення про освітньо-кваліфікаційні рівні (ступеневу освіту)）によれば、マギステルは、「革新的な仕事のための一定レベルの専門的なスキルと知識」、「スペツィアリスト」は、「一定レベルの専門的な活動のための特別なスキルと知識」が求められていると示されている。しかし、このような定義からスペツィアリスト課程とマギステル課程の特徴があまりはっきりされていないと言えるだろう。その結果、2009年において教育科学省副大臣のT. フィニコフ（Т. Фініков）は指摘しているように、多くの高等教育機関が実施された1年制スペツィアリスト課程と1年制マギステル課程の内容はほとんど同様である¹⁰。

ボローニャ・プロセスによるウクライナの教員養成改革に関する研究は、数多く存在している。マギステル課程における教員養成の在り方に関する研究（V.V.オサドチー¹¹、O.A.ネプリツキー¹²、O.M.ソロムヤニー¹³など）、欧州高等教育圏に入ったウクライナの教員養成の内容に関する研究（K.レヴキブシキー¹⁴、V.アンドルシェンコ¹⁵、M.I.パリチュック¹⁶など）、教員養成制度改革に関する研究（I.V.ガブリリッシュ¹⁷、ポノマリョヴァ¹⁸）などがある。中でも教員養成制度改革に関する研究は、本発表の関心に最も近い。

教員養成制度改革に関して、段階制度に焦点を当てて検討した研究にポノマリョヴァ（Пономарьова Г.Ф.）の「教員養成制度：課題と展望」¹⁹がある。ポノマリョヴァは、今日の多様な学校に対応するため、教員養成制度への「多段階構造」の導入が求められていると述べる。多段階構造とは、第1段階を「準スペツィアリスト」（学習期間2年以上）とし、この課程を修了した者が進む第2段階を「バカラブル」（学習期間2年）、さらに上の第3段階を「マギステル」（学習期間1～2年）とする制度である。しかしながら、ポノマリョヴァは教育制度の体系的・形式的な面のみに焦点を当て、それぞれの段階の教育内容や意義に関しては検討していない。

1. 研究課題と方法

本稿の目的は、1年制スペツィアリスト課程とマギステル課程の違いを明らかにすることである。そのため、A国立教育大学の完全高等教育レベルにある1年制スペツィアリスト課程とマギステル課程のカリキュラムを比較・分析する。

目的を達成するため、次の3つの課題を設定した。

〈課題1〉まず、それぞれの課程卒業者の資格について検討する。

〈課題2〉ウクライナの教員養成課程における教育課程の構成について明らかにする。

〈課題3〉課題2で明らかになった構成を指標として、2010-2011学年に実施された1年制スペツィアリストとマギステルの教育課程の比較分析を行う。

本発表では、新制度と旧制度を具体的に比較検討するために、ウクライナの教員養成において中心的な役割を担っている教育大学を事例とし、その教育課程の改革過程を分析する。教育課程の比較では、A国立教育大学外国言語学部の事例分析を行う。同大学は、ウクライナにおいても人口の多いA州に位置し、州内の教員の大部分を養成する先進的な教育大学である。

当大学では、外国言語学部を含む一部の学部が2001年から2002年に新たなバカラブル課程と新たな1年制スペツィアリスト課程を作成し、教育科学省の認定を得た後、一部の学部において2003年に導入された。マギステル課程は2004年に新たに導入された。

2. 課程卒業者の資格

2010-2011学年に実施された1年制スペツィアリスト課程とマギステル課程を比較するため、まず、それぞれの課程卒業者の資格について検討する。

1年制スペツィアリスト課程の終了後に付与される資格は「2カ国外国語と外国文学の教師」(вчитель двох іноземних мов та зарубіжної літератури)、マギステル課程により設定されている資格は「言語の講師(外国語)」(викладач мови)である。従って、1年制スペツィアリスト課程の卒業者は小・中等学校で教える資格があり、マギステル課程の卒業者は大学で教えられる。しかし、2012年現在は、1年制スペツィアリスト課程の卒業者も、マギステル課程の卒業者も同様に小・中等教育機関及び高等教育機関でも教えることが可能である。

また、1年制スペツィアリスト課程の卒業者は2つの専攻及び副専攻があるため、外国語2カ国語を教える資格がある。しかし、マギステル課程の卒業は、一つの言語を中心に学習されたため、外国語1カ国語のみの資格である。

3. 教育課程の構成

一般の教員養成課程のカリキュラムには、内容によって2つのグループが設けられている。

①人文・社会経済学に関する教科(гуманітарна та соціально-економічна підготовка: 歴史、哲学、経済学、社会学、政治学、法律などのような一般知識にかかわる教科)。

②実用的及び専攻に関する教科(професійна та практична підготовка: 教師の仕事にかかわっている教科、たとえば、教育学、心理学、生理学、および言語学、外国語、外国地域、教授法、など学校で教える教科に関する教科)。

学習形態は、教室内の学習(аудиторная робота)、自習(самостоятельная робота)、個別学習(індивідуальна робота)という3つのタイプがある。教室内の学習は、大学が決定した時間割に即して大学内で行われる講義やゼミである。自習と個別学習は時間割に定められていない。自習は学習者が教師の課した課題に取り組む学習をいう。他方、個別学習は、学習者個人が選択した課題に取

り組む学習であり、学生は修了した課題について教師にレポートを提出する。

4. 1年制スペツィアリスト課程とマギステル課程の比較

ここでは、それぞれの教育課程の学習時間を比較する。

表1に示されているように、学習時間は、マギステル課程のほうが多いということが明らかである。しかし、学習時間、教育実習及び卒業論文の作成のための時間を合わせれば、1年制スペツィアリスト課程は合計32週間、マギステル課程は合計32週間になっているということが明らかである。従って、1年制スペツィアリスト課程及びマギステル課程は同様の時間の元で作成されている。

表1 1年制スペツィアリスト課程及びマギステル課程の学習時間（2010-2011年度）

	1年制スペツィアリスト課程	マギステル課程
学習週間	22週間	23週間
総学習時間	1188時間	1242時間
教室内学習時間	532時間	426時間
個別学習時間	216時間	272時間
自習時間	440時間	544時間
教育実習	6週間	8週間
卒業論文の作成	4週間	1週間

*A 国立教育大学外国言語学部（2010-2011年度）をもとに筆者が作成したものである。

続いて、教室内学習時間、個別学習時間と自習時間の割合を比較する。図1に示されているように、教室内学習時間を見ると、1年制スペツィアリスト課程のほうが多い。このような時間の差は、「マギステル」は研究能力が期待されているので、その能力を身に着けるために重要な教室外学習時間（個別学習時間及び自習時間）が多いことから生じている。

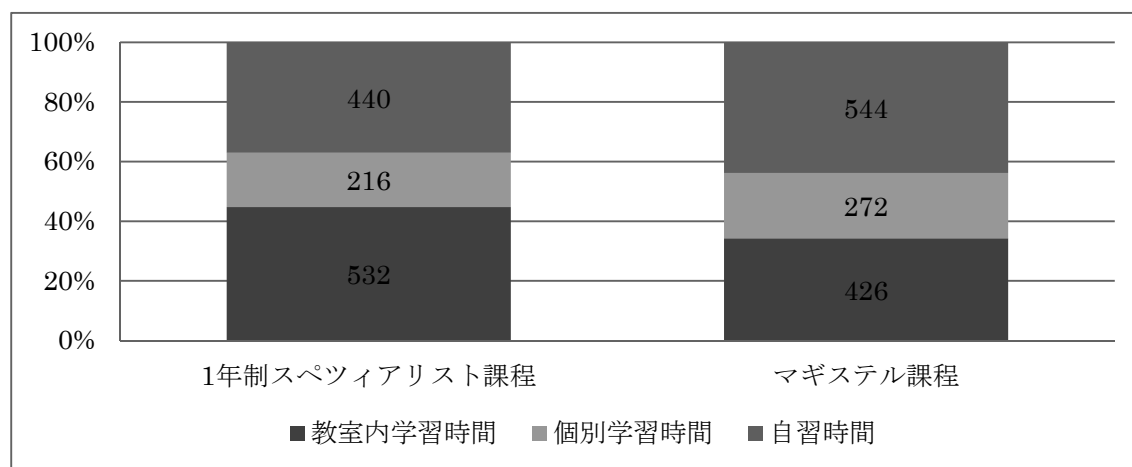


図1 教室内学習時間、個別学習時間と自習時間の割合

*A 国立教育大学外国言語学部（2010-2011年度）をもとに筆者が作成したものである。

また、マギステル課程には、1年制スペツィアリスト課程より2週間長い教育実習がある。その上、マギステル課程の教育実習は、スペツィアリスト課程と異なって、中等学校だけではなく、高等教育機関でも行われている。

1年制スペツィアリスト課程の学生もマギステル課程の学生も、卒業論文を執筆する。教育課程により、卒業論文を作成するための時間は1年制スペツィアリスト課程では4週間、マギステル課程は1週間と決定されている。

続いて、それぞれの教育課程の教科を検討する。教員養成の第5年目になる1年制スペツィアリスト課程及びマギステル課程は、主に実用的及び専攻に関する教科の学習を深める内容になっている。

表2から明らかになっているように、人文・社会経済学に関する教科は、1年制スペツィアリスト課程とマギステル課程は同様である。

表2 1年制スペツィアリスト課程及びマギステル課程における人文・社会経済学に関する教科(2010-2011年度)

教科	学習時間：(自習-個別学習-教室内学習) 合計	
	1年制スペツィアリスト課程	マギステル課程
ウクライナ憲法の基礎	(20-10-24) 54	(24-12-18) 54

*A 国立教育大学外国言語学部(2010-2011年度)をもとに筆者が作成したものである。

実用的及び専攻に関する教科の検討で以下のことが明らかになっている。表3に示されているように、1年制スペツィアリスト課程で履修されているほとんどの教科は、第2外国語に関する2つの教科、外国文学の教授法とテスト学の基礎の特別ゼミを除いて、マギステル課程にもある。しかし、マギステル課程の約半分の教科は、1年制スペツィアリスト課程には入っていない。その教科は、ウクライナ語と外国語の比較学、教育・研究の新技术、高等教育学、高等教育の外国語教授法、言語学史、ゲルマン学(ローマ学)の研究課題に関する特別コース、研究方法論、高等教育とボローニャ・プロセスであり、言い換えれば、研究、高等教育学及び論理的な言語学に関する教科であると言える。1年制スペツィアリスト課程には、研究や研究方法に関する教科がない。

表3 1年制スペツィアリスト課程及びマギステル課程における実用的及び専攻に関する教科(2010-2011年度)

教科	学習時間：(自習-個別学習-教室内学習) 合計	
	1年制スペツィアリスト課程	マギステル課程
総合言語学	(28-12-32) 72	(32-16-24) 72
第1外国語の書き話す能力の実習	(140-70-168) 378	(136-68-102) 306
第2外国語	(114-56-136) 306	(96-48-72) 216
第2外国語の総合理論コース	(20-10-24) 54	

第1 外国語の理論音声学	(20-10-24) 54	(24-12-18) 54
外国文学の教授法	(14-6-16) 36	
第2 外国語の特別ゼミ	(12-6-18) 36	
第1 外国語の特別ゼミ	(20-10-24) 54	(24-12-18) 54
知的所有	(12-6-18) 36	(12-6-18) 36
修辞学	(20-10-24) 54	(24-12-18) 54
テスト学の基礎の特別ゼミ	(20-10-24) 54	
ウクライナ語と外国語の比較学		(24-12-18) 54
教育・研究の新技术		(24-12-18) 54
高等教育学		(24-12-18) 54
高等教育の外国語教授法		(24-12-18) 54
言語学史		(24-12-18) 54
ゲルマン学（ローマ学）の研究課題 に関する特別コース		(24-12-18) 54
研究方法論		(16-8-12) 36
高等教育とボローニャプロセス		(12-6-18) 36

*A 国立教育大学外国言語学部（2010－2011年度）をもとに筆者が作成したものである。

おわりに

以上を踏まえ、1年制スペシャリスト課程及びマギステル課程の特徴について、以下のことが言えるだろう。

1年制スペシャリスト課程の卒業者は中等学校で教える資格があり、マギステル課程の卒業者は大学で教えられるが、2012年現在は、1年制スペシャリスト課程の卒業生も、マギステル課程の卒業生も小・中・高等教育機関でも教えることが可能である。また、1年制スペシャリスト課程の卒業生は2つの専攻及び副専攻があるため、外国語2カ国語を教える資格がある。しかし、マギステル課程の卒業生は、一つの言語を中心に学習されたため、外国語1カ国語のみの資格である。

一般の教員養成課程のカリキュラムには、内容によって①人文・社会経済学に関する教科と②実用的及び専攻に関する教科という2つのグループが設けられている。学習形態は、教室内の学習、自習、個別学習という3つのタイプがある。

マギステル課程には、1年制スペシャリストより長い教育実習がある。教員養成の第5年目になるスペシャリスト課程及びマギステル課程は、主に専門とする教科の学習を深める内容になっている。また、マギステル課程は、スペシャリスト課程と比べると、教室外学習が強調され、スペシャリスト課程にはない研究や研究方法に関する教科がある。

1年制スペシャリスト課程で履修されているほとんどの教科は、マギステル課程にもある。しかしマギステル課程の約半分の教科は、1年制スペシャリスト課程に入っていない。その教科は研究高等教育学及び論理的な言語学に関する教科である。マギステル課程は、スペシャリスト課程と比

べると、一般の教師より研究者養成のほうに向かっているとと言えるだろう。

他方、スペツィアリスト課程の卒業者は卒業論文を作成しなければならない上、履修する教科もほとんどマギステル課程に入っている。スペツィアリスト課程では、研究者養成もある程度まで行われていると言える。

上にみたように、スペツィアリスト課程とマギステル課程には、共通点が多い。教員養成課程として、1年制スペツィアリスト課程とマギステル課程の両方が存在する二元制度の意義はどこにあるのかを明らかにするのは、今後の課題である。

トカチェンコ・スヴィトラナ (筑波大学大学院人間総合科学研究科教育基礎学専攻後期2年)

- 1 Закон України «Про освіту» 1991 із змінами від 01.01.2013 (ウクライナの「教育法」、1991年、2013年1月1日改正)
- 2 Вітвицька, С.С. Системно-історичний аналіз етапів становлення магістратури в Україні та Росії // Вісник Житомирського державного університету. – 2005. – №25 – С.249-252 (S.S.ヴィチヴィツカ「ウクライナ及びロシアにおけるマギステル課程形成段階のシステム歴史分析」、『ジトミル国立大学通報』、第25号、2005年、pp. 249-252)
- 3 New Members of the Bologna Process, National Report of Ukraine 16.09.2004, ボローニャ・プロセスのホームページ (2013年2月19日再アクセス)
http://www.ehea.info/Uploads/Documents/National_Report_Ukraine_05.pdf
- 4 Неприцький О.А. Приєднання України до Болонського процесу і післядипломна педагогічна освіта // Відродження. Науково-методичний вісник. – Вінниця, 2005. С.23 (O.A.ネプリツキー「ウクライナのボローニャ・プロセスへの加盟と高等教育後の教師教育」、科学方法論の通報『復活』、2005年、pp.23)
- 5 New Members of the Bologna Process, National Report of Ukraine 16.09.2004
- 6 トカチェンコ・スヴィトラナ「ボローニャ・プロセスによるウクライナ教員養成の2段階制度に関する研究—ハリコフ国立教育大学を事例にして—」修士論文、筑波大学、2010年、p. 57)
- 7 Концептуальні засади розвитку педагогічної освіти України та її інтеграції в європейський освітній простір (「ウクライナ教員養成の発展と欧州教育圏への統合の基本理念」、2004年12月31日)
- 8 ウクライナの「教育法」、1991年、2013年1月1日改正
- 9 Положення про освітньо-кваліфікаційні рівні (ступеневу освіту), Постанова Кабінету міністрів України №65 від 20.01.1998 р. (「教育資格水準(段階教育)についての法規」、第65ウクライナ内閣法規、1998年1月20日)
- 10 Львова І. На магістрів учитимуть не рік а два? // Експрес газета 21.7.2009 (イリナ・リヴオワ「修士課程は1年ではなく、2年になる?」、『エクスプレス新聞』2009年7月21日)
- 11 Осадчий В.В. Місце магістратури у системі підготовки педагога вищої школи // Вісник Черкаського університету. Серія: Педагогічні науки. - Випуск 124. - Черкаси: ЧНУ, 2008. - С. 118-126 (V.V.オサドチー「高等教育での教員養成制度におけるマギステル課程の位置づけ」、チェルカシ大学通報『教育科学』第124号、2008年、pp. 118-126)
- 12 O.A.ネプリツキー、2005年、pp.23-26
- 13 Солом'яний О.М. Фактори ефективності підготовки магістрантів до педагогічного проектування // Вісник Черкаського університету. Серія: Педагогічні науки. - Випуск 135. - Черкаси: ЧНУ, 2008. - С. 106-110 (O.M.ソロムヤニー、「教育設計における効率的な修士課程の要素」、チェルカシ大学通報『教育科学』第135号、2008年、pp. 106-110)
- 14 Левківський К. Підготовка сучасного вчителя згідно з вимогами Болонського процесу // Освіта України. - 2008. -С. 3 (K. レヴキブシキー、「ボローニャ・プロセスの要求に沿っての現代教員養成」、

『ウクライナの教育』第15号、2008年、p.3)

- 15 Андрущенко В. Модернізація педагогічної освіти України в контексті Болонського процесу // Вища освіта України.- 2004.- №1.- С.5-9. (V.Андрущенко「ボローニャ・プロセスにおけるウクライナの教員養成の近代化」、『ウクライナの高等教育』第1号、2004年、pp. 5-9)
- 16 Пальчук М.І. Підготовка педагогічного персоналу в умовах європейської інтеграції // Теоретичні та методичні засади розвитку педагогічної освіти: педагогічна майстерність, творчість, технології: Збірник наукових праць – 2007. – №5. – С.275-279 (M.I.Паричук「欧州への統合事情による教員養成」、研究論文収集『教員養成の発展の理論的と方法論的な基礎：指導力・創造性・技術』第5号、2007年、pp. 275-279)
- 17 Гавриш І.В. Розвиток інноваційної педагогічної освіти як пріоритетний напрямок модернізації національних систем підготовки освітянських кадрів у ХХІ ст. // Педагогічні науки. Збірник наукових праць 2008. – N 1. – С. 41-48 (I.V.ガブリッシュ「21世紀における教育人材育成国家システムの近代化の優先事項である革新的な教師教育の開発」、研究論文収集『教育科学』第1号、2008年、pp. 41-48)
- 18 Пономарьова Г.Ф. Система педагогічної освіти: проблеми і перспективи // Вісник Харківського національного університету. Серія «Наукові записки кафедри педагогіки» – 2008. – N 21– С. 32-38. (G.F.ポノマリョヴァ「教員養成制度：課題と展望」、ハリコフ国立大学通報、『教育学部の研究論文』、第21号、2008年、pp. 32-38)
- 19 同上